

平成16年度弁理士試験論文式筆記試験問題

[資源生物学]

1. 水産資源量を推定することは、資源管理の上で重要な課題である。これまで数多くの推定法が提出されている。これらのうち、(1)直接法である目視法と(2)間接法である努力当たり漁獲量を用いる方法につき、原理を含めて知るところを説明せよ。

【10点】

2. 生物資源に関する以下の文中、 から に適当な語を入れよ。

【16点】

- (1) 発電や地域暖房の燃料として、最近では化石燃料に代わって木質バイオマスが実用化されている。この木質バイオマスの主成分は や などの有機物である。
- (2) 漁業管理を行うために漁獲上のさまざまな制限がもうけられている。これらには 、 、 、 などがある。
- (3) 水産資源の系群は隔離と突然変異によってできる。個々の系群の判別は水産資源の調査、解析、管理を行う上で必要となる。系群の判別法としては 方法や方法などがある。

3. 以下の語句を簡潔に説明せよ。

【24点】

- (1) 海洋動物の年齢形質
(2) 水産動物の性比
(3) ラニーニャ
(4) 巻き貝類のインボセックス
(5) 維持漁獲量(持続漁獲量)
(6) 熱帯雨林

論点 [資源生物学]

- 1 . 水産資源を管理する上で重要な水産資源量の推定法についての基礎的な理解を問う。
- 2 . 生物資源に関する幅広い基礎知識を問う。
- 3 . 用語の理解から、資源生物学への日常の関心と取組を問う。